

◆朱雀門隣接地の調査—第307次

はじめに 朱雀門地区案内所建設にかかる発掘調査。トレンチの場所は、朱雀門にとりつく東側の南面大垣から2m南の塙地で、朱雀門東端から15~25m東の位置に、東西に長い10m×6mの発掘区を設定した。

検出遺構 発掘区の東南部分は第130次南調査と重複した部分で、それはトレンチ全体の45%を占め、さらに発掘区中央にヒューム管が走り、それを残すように掘り下げたため、新たな調査部分の面積は約20m²となった。

検出した遺構は溝状遺構1条のみである。溝状遺構SD18170は東西方向にのびるもので、幅60cm、深さ25cm、東西3m分を検出した。しかし、それは発掘区東半部に

は連続して続かない。溝内からは遺物が出土せず、時期は不明だが、溝自体は地山の灰色砂上で検出した。

これまでの平城宮南面大垣南の調査では、大垣本体の築地土部分のすぐ南に鋸歯状の掘込地業があり、大垣心から南12mで二条大路北側溝を検出するのが通例であり、その間に、建物の柱穴を検出することはほとんどない。今回の調査においても、柱穴は全く検出しなかった。また、南面大垣の犬走り部に接して雨落溝があるとしても、その想定位置はトレンチの北にあたり、今回検出した溝状遺構SD18170は、それに相当するものではない。

(山崎信二)

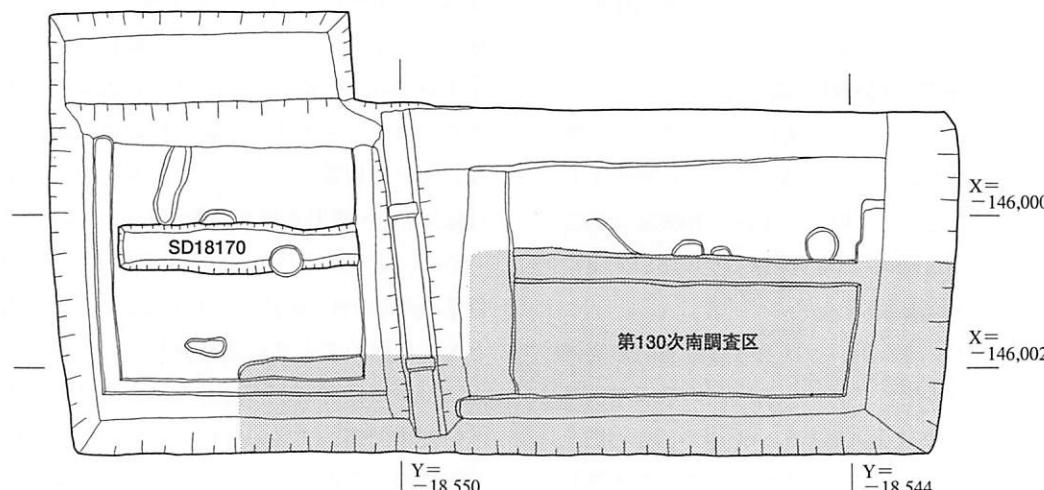


図30 第307次調査遺構平面図 1:80

表7 平城宮跡発掘調査部1999年度現場班編成表

(色文字は総担当者)

| 春 | | 夏 | | 秋 | | 冬 | |
|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
| 石橋 茂登 | 考古第1 | 次山 淳 | 考古第1 | 清水 重敦 | 遺構 | 井上 和人 | 考古第1 |
| 川越 俊一 | 考古第2 | 高橋 克壽 | 考古第2 | 玉田 芳英 | 考古第2 | 金田 明大 | 考古第2 |
| 岩永 省三 | 考古第3 | 山崎 信二 | 考古第3 | 千田 剛道 | 考古第3 | 清野 孝之 | 考古第3 |
| 西山 和宏 | 遺構 | 蓮沼麻衣子 | 遺構 | 箱崎 和久 | 遺構 | 浅川 滋男 | 遺構 |
| - | - | 内田 和伸 | 計測修景 | 高瀬 要一 | 計測修景 | 中島 義晴 | 計測修景 |
| 館野 和己 | 史料 | 吉川 聰 | 史料 | 山下信一郎 | 史料 | 渡辺 晃宏 | 史料 |